

# ブルーカーボンオフセット・クレジットの申請を可能にする藻場現存量の簡易評価手法の開発研究

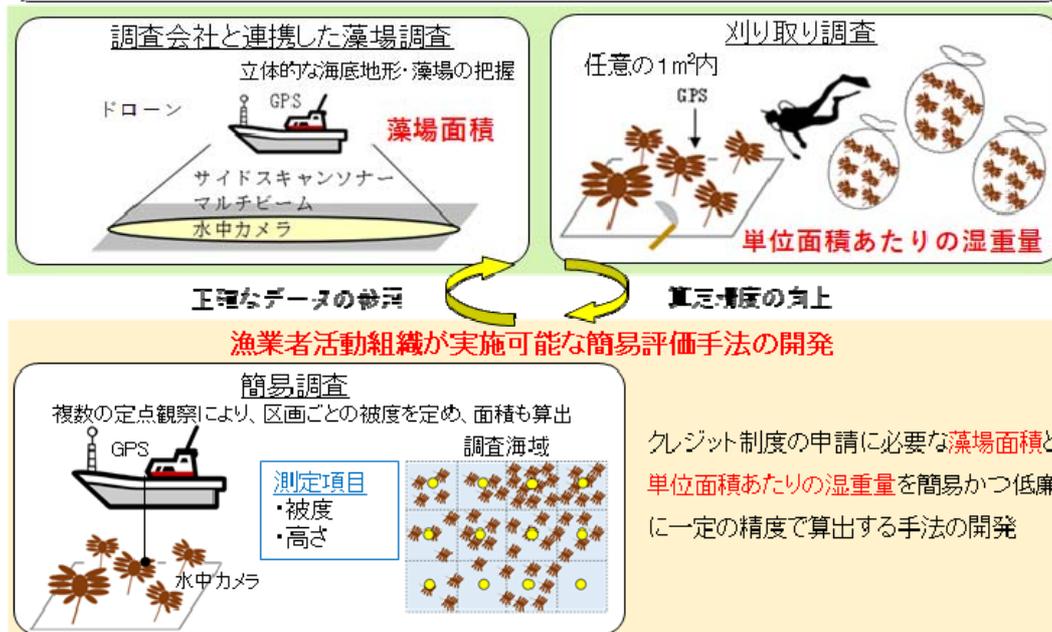
(予算区分 研究費 研究期間 2022～2023 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 深層水科 清水一輝

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 脱炭素社会の構築に向け、ブルーカーボンが新たな炭素吸収源として世界的に注目されています。
- ・ 2020 年度からブルーカーボンオフセット・クレジット制度の試行が開始され、藻場の維持・拡大のために必要な活動資金を調達する新たなツールとして期待されています。
- ・ 本県は、榛南地域や伊豆半島など、多年生の大型海藻の繁茂に適した岩礁域を多く擁し、クレジット制度を活用して吸収源対策を進める好適地であるものの、現状この制度の活用には至っていません。
- ・ クレジット制度の活用に向け、申請に必要な藻場面積及び単位面積当たりの湿重量を漁業者活動組織が簡易かつ低廉に一定の精度で評価できる技術手法の開発を行います。

$$\text{ブルーカーボン量} = \text{藻場面積 (調査)} \times \text{単位面積あたりの湿重量 (調査)} \times \text{ブルーカーボン残存率 (文献)}$$



## 【期待される効果】

- ・ 榛南海域の漁業者等が自らクレジット制度を活用し、藻場の維持・拡大のための活動資金の調達が可能となります。
- ・ 開発した手法を県内他地域の藻場に 응용し、申請可能な県内全藻場におけるクレジット制度活用を目指します。

## 【年次計画】

細目課題	2022年度	2023年度	研究内容
藻場現存量の簡易評価手法の開発	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査会社と連携した藻場面積等調査</li> <li>・ 刈り取り調査による湿重量の把握</li> <li>・ 簡易的な藻場調査手法の開発</li> </ul>

(作成 2022 年 7 月)